

CRC 連絡誌 No.281 号、2000 年 9 月
CRC 事務局 宇宙線研支部
crcjimu@icrr.u-tokyo.ac.jp

宇宙線研究者会議連絡誌

E-mail で「CRC News」を 毎週 1~3 回ほど配信しています。

E-mail address をお持ちの会員で、最近「CRC News」の E-mail を受信していない方は、事務局 (crcjimu@icrr.u-tokyo.ac.jp) へお知らせ下さい。

CRC Homepage <http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/CRC/>

には、「速報」や「会員名簿」などがあります。ご利用ください。

会費は郵便振替でお振込み頂くか、又は CRC 事務局へ 直接お渡し下さい。

郵便振替 口座番号 : 00280 - 3 - 70114

加入者名 : CRC 事務局

[CRC 関連委員会報告および募集]

開催日、	記事	CRC Homepage の速報-No.	頁
平成 12 年			
1. 2月26日、	平成 11 年度第 3 回 CRC 実行委員会議事要録	速報- 89	page- 3
	(資料.1) 原子核専門委員会・物理学研究連絡委員会報告		page- 7
	(資料.2) 第 1 回 2003 年宇宙線国際会議準備委員会議事録		page- 8
	(資料.3) 第 2 回 2003 年宇宙線国際会議準備委員会議事録		page- 9
	(資料.4) 宇宙線物理学賞および宇宙線物理学奨励賞要綱(案)		page-11
2. 3月30日、	平成 11 年度第 4 回 CRC 実行委員会議事要録	速報-102	page-12
3. 3月31日、	平成 11 年度第 2 回 CRC 総会議事要録	速報-103	page-13
4. 4月22日、	大阪大学核物理センター (RCNP) 運協報告	速報- 93	page-18
5. 6月16日、	KEK 運協報告	速報-111	page-19
6. 7月15日、	平成 12 年度第 1 回 CRC 実行委員会議事要録	速報-122	page-20
7. 7月24日、	第 17 回素核研 (KEK-IPNS) 運協報告	速報-116	page-28
8. 9月 5日、	第 1 回宇宙線物理学奨励賞 受賞候補者の募集	速報-123	page-30

[主な CRC 活動]

- 4月12日、 CRC 選挙公示
- 4月13日、 CRC 連絡誌 No.280 発行郵送
- 5月 1日、 CRC 選挙開票
- 5月 8日、 会員名簿調査
- 6月26日、 CRC 連絡誌 速報-1号 発行郵送
- 7月15日、 平成 12 年度第 1 回 CRC 実行委員会
- 9月 5日、 第 1 回宇宙線物理学奨励賞 受賞候補者の募集
- 9月18日、 CRC 連絡誌 No.281 発行郵送
- 9月18日、 CRC 連絡誌 速報-2号 発行郵送
- 随 時、 CRC News 配信

以下に、E-mail で配信した その他の「CRC News」のリストを列記しました。
「CRC Homepage の速報」又は「CRC 連絡誌 速報版」を参照して下さい。

CRC News 配信日、速報 No.、 記 事

研究会

- 4 月 6 日、速報- 88、次期秋の学会シンポジウム企画
- 4 月 13 日、速報- 90、特定・宇宙ニュートリノセンター共催研究会
- 4 月 25 日、速報- 94、IEEE Nuclear Science Symposium (Lyon, France)
- 4 月 25 日、速報- 95、第一回 Geant4 入門者のための講習会
- 5 月 9 日、速報- 97、特定・宇宙ニュートリノセンター共催ニュートリノ研究会
- 5 月 16 日、速報- 99、物理学会（2000 年秋）における合同セッション
- 5 月 29 日、速報-105、物理学会・合同シンポジウム「放射線検出器と新しい応用 (IV)」
- 6 月 12 日、速報-107、特定・宇宙ニュートリノセンター共催第 2 回研究会
- 6 月 14 日、速報-108、秋の物理学会の宇宙線関係シンポジウムと特別講演
- 6 月 21 日、速報-109、EUSO ワークショップ 2000
- 7 月 31 日、速報-115、2nd Int. Workshop on Neutrino Beams and Instrumentation
- 8 月 15 日、速報-119、ICRR Int. Symposium on Future Trends in Cosmic Ray Physics
- 9 月 1 日、速報-120、特定・宇宙ニュートリノ第 3 回研究会のお知らせ
- 9 月 7 日、速報-125、ICRR Int. Symposium on Future Trends in Cosmic Ray Physics (2)

人事公募

- 4 月 5 日、速報- 87、名古屋大学太陽地球環境研究所教官公募
- 5 月 1 日、速報- 96、山形大学理学部物理学科助手公募
- 5 月 16 日、速報-100、東京都立大学大学院理学研究科助教授公募
- 5 月 30 日、速報-106、東京大学宇宙線研究所教官公募 3 件
- 6 月 21 日、速報-110、東京工業大学大学院理工学研究科基礎物理学教授公募
- 7 月 7 日、速報-112、大阪市立大学理学部数物系専攻物理学科教授公募
- 8 月 14 日、速報-118、大阪大学大学院理学研究科物理学専攻教授公募

その他のお知らせ

- 4 月 13 日、柏の宇宙線研の CRC 会員の連絡先
- 4 月 18 日、速報- 92、連絡誌、選挙、会費のお知らせ
- 4 月 19 日、CRC 選挙のメール選挙用紙配信
- 4 月 25 日、CRC 選挙の投票の呼びかけ
- 5 月 8 日、CRC 会員名簿確認メール
- 5 月 10 日、速報- 98、平成 12 年度 CRC 選挙の開票結果
- 5 月 12 日、CRC 会員名簿更新のお知らせ
- 5 月 19 日、速報-101、CRC 会員名簿更新のお知らせ
- 5 月 26 日、速報-104、「ICRR ニュース」40 号のお知らせ
- 7 月 17 日、速報-113、秋の物理学会プログラムの概略
- 7 月 28 日、速報-114、日本物理学会第 55 回年次大会で託児室が開設
- 8 月 10 日、速報-117、CRC 会員名簿更新のお知らせ
- 9 月 4 日、速報-121、訃報；シカゴのシンプソン氏御逝去

***** < 平成 11 年度第 3 回 CRC 実行委員会議事要録 > *****

日 時 : 平成 12 年 2 月 26 日、10:00 ~ 17:30

場 所 : KEK 田無分室 第一会議室

出席者 : 坂田通徳 (委員長)、太田周、梶田隆章、川上三郎、神田展行、佐々木真人、柴田徹、
鳥居祥二、松岡勝、村木綏、柳田昭平、吉井尚、(以上委員)、戸塚洋二 (依頼出席)、
林田直明 (事務局);(敬称略)

報告 : CRC 事務局、宇宙線研究所、核専委・物研連、阪大核物理センター、STE 研、
第 28 回宇宙線国際会議準備委員会

- 議題 : 1. 新入会員
2. 事務局の分業化
3. 選挙
4. 名誉会員
5. CRC 奨励賞制度
6. 大学の活性化について

報告.1 事務局 (林田)

(1) 会費納入状況 (2000 年 2 月 24 日現在)

(a) (完納者数 / 会員数) = (269 / 325) = 83 %

(b) 会計 (概算) : 残金 → 100 万円

支出予定 → 25 万円 (連絡誌 + 選挙 + 事務経費)

(2) 11 月 12 日、立教大学の 蓬茨 霊運氏 が御逝去されました。謹んで御冥福をお祈り致します。

(3) 「CRC News」等のメール配信。

委員会報告 7 件; 10/18; 実行委議事要録、10/18; 拡大実行委メモ、10/28; 総会議事要録、
12/21; 実行委議事要録、12/21; 総会議事要録、1/24; KEK 運営協議会、
2/9; KEK 運営協議会

公募案内 6 件 ; 10/4; ニュートリノ振動研究、11/25; 阪大教授、12/1; 名大教官、
12/13; ICRR 共同利申込み、研究員、12/21; 東北大助教授、
1/26; 高エネルギー物理学奨励賞

研究会案内 9 件; 10/28; ICRR 共同利研究発表会、11/22; ニュートリノ振動とその起源、
12/13; European CR Symposium、12/24; 太陽圏シンポジウム、
12/24, 1/7; ニュートリノ振動とその起源の解明、
2/17; 太陽圏外圏の光学的研究、2/24; 柏微弱放射能測定設備利用研究会
2/24; Inter. Conf. on Physics at Extreme Energies

その他のお知らせ 14 件

これらの詳細は、CRC Homepage ; <http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/CRC/> の「速報」に掲載
してあります。

報告.2 宇宙線研究所 (戸塚所長)

(1) 外部評価

平成 12 年 2 月 1, 2 日外部評価委員会を開催した。本研究所研究活動の現状、将来計画の妥当
性、将来計画実現へ向けた研究所体制の妥当性、その他の評価をお願いした。近期中評価報告
書が作成される予定である今後、評価結果に基づいて人事等を行っていききたい。

(2) 平成 13 年度概算要求最重点事項 : 宇宙線望遠鏡計画。引続き核専委、物研連のご支援をお願い
する。

(3) International Cosmic Ray Conference 2003 (28th ICRC)

準備委員長は梶田隆章教授である。

場 所：つくば国際会議場、

開催日：平成 15 年 7 月 31 日～8 月 7 日 (8 日間)。

学術会議の開催をお願いする。

(4) その他

柏新キャンパスへの移転が始まる。3 月中に全ての研究部及び事務部が引っ越す。

柏キャンパス内に共同利用宿泊棟が出来、近々利用可能になる。シングル 28 室、ツイン 2 室
竣工記念式典は遅れて 10 月 13 日 (金) に物性研究所と合同で行う。

式典にあわせて記念シンポジウム及び一般講演会を行う予定。

独法化に関しては、東大総長室の対応を待っている。

(5) 学術会議物理学研究連絡委員会

2 月 23 日物研連において宇宙線望遠鏡計画の紹介と議論を行った。いくつかの質問がでたが、
物研連は宇宙線望遠鏡計画を支援するとの結論に達した。

ICRC2003 の学術会議主催の申込を物研連は承認した。今後、申請書の中に第 4 部にさらなる
審査をお願いするか、第 4、5 部合同審査をお願いするか主催者側で決めること。

最終的に常置委員会にて各部から提出された申請の中から決定する。現在のところ、物研連
で競合する申請は出されていない。

報告.3 原子核専門委員会・物理学研究連絡委員会

2 月 22 日に行われた委員会の湯田幹事からの報告が実行委員長から紹介された。(資料.1 参照)

報告.4 大阪大学核物理学研究センター (村木委員)

(1) 旧核研の Numatron-Tarn-II を KEK から RCNP への移管する可能性について検討した結果、
維持費と人の目処が立たないことなどから移管しないという報告がセンター所長からあった。

(2) 西播磨のフォトンファクトリーは、2001 年 9 月から共同利用が始まる。

(3) 重点設備費が通り、超精密スペクトロメーターが完成した。

報告.5 名古屋大学太陽地球環境研究所 (STE 研) (村木)

(1) 国立環境研究所は名古屋大 STE 研ではなく京都大にできることになった。

(2) 藤本和彦氏が助教授に決まった。

報告.6 第 1 回 2003 年宇宙線国際会議準備委員会 (梶田委員)

(1) 準備委員会委員が決まり、11 月 27 日に第 1 回準備委員会が開かれ、スケジュールや会場場所の
選定等が議論された。

(2) 日本物理学会の 12 月の理事会にて、「共催」の形で承認された。

(3) 1 月 5 日 第 2 回準備委員会が開かれ、会場場所を 4ヶ所にしぼった。

(4) 2 月 11 日 第 1 候補地としてつくば国際会議場、第 2 候補地を名古屋国際会議場とし、
日程を 7/31(木)～8/7(木)とした。

(5) 2 月 22,23 日 物研連で承認された。

(資料.2、資料.3 参照)

議題.1 入会希望者

松田 充史 (宇宙線研 D1); (推薦者); 佐々木真人、福島正己

(研究歴); 2 年間、TA プロトタイプ望遠鏡の開発、ゲイン較正、

レーザ射出制御の確立、トリガープログラム開発等を実行。

研究歴が紹介され、入会が承認された。(尚、今回 退会通知者は無かった)

議題.2 事務局の分業化

- (1) 宇宙線研で「CRCPOST」業務 → 会員との連絡、機械的な事務作業
 (A) CRC News ; 配信依頼メールの受付と会員への配信
 (各種委員会報告、研究会案内、公募案内など)
 (B) 名簿 ; 会員の移動、入退会の連絡受付
 (C) 会費 ; 受付と会計
 (D) 連絡誌 ; 発行と郵送
 (E) 「事務局」との連絡
 (F) ホームページ管理
 (G) CRC 選挙事務
 従って各会員との連絡(メール、会費)は、今までと変わらず、宇宙線研へ
 (2000.02.24 現在の E-mail 会員数は 242 名で全会員 325 名の 74 %)
- (2) 担当大学で「事務局」業務 → 実行委員会との連絡、決断が伴う仕事
 (A) 実行委員会(年 4 回)、総会(年 2 回)の準備から議事要録作りまで
 (B) 実行委員長、実行委員との連絡(特に実行委員会の前など)
 (C) 「CRCPOST」との連絡(実行委員会用の資料取り寄せなど)
 審議の結果、上記の方針で実施することになった。
 尚、2000 年 4 月から 1 年間の次期「事務局」を、埼玉大学にお願いすることになった。

議題.3 CRC 選挙

- (1) CRC 実行委員会委員長 および委員の選挙
 昨年と同様に、委員長 1 名、委員 6 名を連記して投票してもらい、12 名を選出する。
- (2) 第 18 期物研連・原子核専門委員会委員推薦候補者の選挙
 前回(1997 年)と同様に、3 名を連記して投票してもらい、7 名を選出する。
- (3) 「委員会構成の「若返り」を促進させるために、若い人を選んで頂けることを期待します。」
 という実行委員会からの呼びかけの文を選挙公示に明記する。但し、今回は選挙の当落規定
 とはせず、次期実行委員会で今回の「呼びかけ」の効果を評価して今後の参考にして頂く。
- (4) この 3 月は宇宙線研の柏移転直後になるため、選挙時期を 2 週間程遅らせる。
- (5) 昨年と同様に、郵送投票と電子メール投票とを実施するが、電子メール選挙用紙は、締切日
 の 1 週間ほど前に配信することにした。

議題.4 名誉会員制度

退官、現役引退などを機に退会される会員がいるが、まだ CRC との関わりを保って頂きたい方も少なくないので、名誉会員制度を新設すべきでは、との意見が出ている。
 連絡誌郵送など、CRC 関連情報を提供するが、会費は頂かない。
 ある年齢(65 歳、70 歳?)で、有資格者とするか。
 選挙権はどうするか。
 会員年数を考慮するか。
 有資格者ご本人に聞いて、普通会员 / 名誉会員を選択していただくか。
 名称を「OB/OG 会員」と軽くした方がよいか。
 既に退会された方も対象とするか。
 などの検討事項が議論され、次回実行委員会までに明文化した案を作ることになった。

議題.5 CRC 奨励賞制度(佐々木)

佐々木委員より、「宇宙線物理学賞および宇宙線物理学奨励賞 要綱(案)」;(資料. 4)、
 及び「第 1 回(2000 年度)宇宙線物理学賞および宇宙線物理学奨励賞 推薦・応募のお知らせ
 (案)」;(資料. 略)が提案され、
 (a) 選考委員長は宇宙線関係者と明記した方がいい。
 (b) 対象者がグループの場合どうするか。
 (c) 春の総会で承認をもらい、次期の第 1 回実行委員会でスタートする。
 などが議論された。

議題.6 物理学会賞候補選定方式

- (a) 9月に推薦依頼が来て、12月頃の〆切までに決める。
- (b) 世話人が決めて、CRC事務局から会員に配信する。

議題.7 大学の活性化について

宇宙線研究に対して、学科内の他分野からの圧力が大きい。「核」関連のポストに空席が出た場合、素核宇系を止めて、その他の分野の人をそのポストに採用すべきだとの主張が強まっている。不信感の例として、論文の著者数のことをよく問題にされる。また、巨大実験では有能な人が大研究所に集まり、弱小大学の研究者はただのお手伝いのはずだ、という見方が強い。大学では「核」関連分野に対する不信感があり、特に弱小大学にその傾向が強い。

われわれの大学でも、独自性のある大仕事をやっていないと、立場が弱くなる。自分が行なっている研究の主体性を明確に学内に示すには、大学独自の project を進めるしかない。

少しの資金でもアイデア次第でよい物理ができると主張する人がいるが、それはどの物理分野でもきわめて困難になっていると思う。認識を変えてもらわねばならない。

分野全体で協調すべきである。極めて優れた大型計画を皆で立案、運営することが先決だ。その過程で活性化が図られるであろう。

宇宙線研究の意義を、他分野の人に対して学問的に説明し納得させるという場も機会も小大学にはなく、イメージや先入観が支配的である。

大学院に重点が置かれていない国立大学では、独立法人化の流れも加わって、基礎研究の立場が弱くなっている。校費が30%も減って研究が大変に困難になって来ている。

そのとおりである。地方大学では理学部が小さくなっているか、理学部の工部化が進んでいる。理学系が100億円必要と言うと「それは無駄金だ」と言う人が出る。一方応用系で同じことを言えば「いいよ」となる。

研究者の流動化は各大学の活性化にとって有効である。一方、大研究所で働くのは体力的にも精神的にも大変であるので研究所には若い人が要る。50才位を過ぎたら各大学へ移ることができれば、各大学の活性化につながる。研究所にはこのような人材が多い。

各大学でも若い人材が必要であり、年配者のみでは成り立たない事も理解願いたい。

他機関からの研究費などが、オーバーヘッドで大学に入らない限り、大学での基礎研究は歓迎されたい。

地方大学には金だけでなく、中央からの「形式的なサポート」(例えば「何々分室」)もあった方がより良い。でなければ単なる「大プロジェクトのお手伝い」と見られる。

かつての宇宙線研究にはいわば「護送船団方式」があって、各大学独自の計画に資金が出されていた。今は中央の大プロジェクトに各地方大学がぶらさがっている。

「形式的なサポート」だけに留まらず、イタリアのINFLのように「実体(装置など)を伴うサポート」があれば更に強くなれる。

ある地方大学が、大プロジェクトの一つのパートを選定、設計、メンテナンスまで、責任を持って担当するという連邦制にするのも一案ではないか。また中央からの長期貸与、移管という方法もある。

今や具体的な動きが必要である。議論ばかりでは何も進まぬ。

科研費の特定領域の様なものを活用してはどうか。これを得る方法を探るべきである。

X線衛星のグループでは、1つの大プロジェクトについて各拠点大学がある。それらの大学でも科研費が採れていたので実現できたのかも知れない。

それは大大学だけであろう。小さい地方大学ではひどいもので、更に独立法人化の動きが拍車をかけている。

各大学の方々の欲する方針が理解できない。研究所と大学関係において Equal partnership を目指すのか、Blockされたいのか。活性化という限り、将来的に Equal partnership を目指す具体化策が必要ではないか。

例えば Project のスポークスパーソンを研究所以外から積極的に選出することもよし。

大プロジェクトの場合、各地方大学が参加して、方針の立案決定から担当部分の設計製作まで主

体的に貢献できる様にすべきである。また各大学・研究機関の代表者会議あるいは「Collaboration Board」の様な委員会を組織して、一部の人だけで物事を決めていく事がないような形式を整える事が重要だ。研究成果の発表もその担当大学が行う様なシステムが必要であろう。カンガルーグループや TA グループは、その様なシステムができていますので、もしそこに問題点があるなら具体的に出し合ってはどうか。

そこにはおそらく問題はないであろう。むしろ問題は地方大学側にもあるのではないか。宇宙線研の所員に比べ各大学の活性度が低くて、貢献してもらいたくとも多くを期待できないという事はないか？

危機意識が低いのではないか。分野としての成果を最大化する協調体制の確立が宇宙線という分野の存亡にかかわると理解すべきである。高エネルギーにはそれがあると思う。

既存の大グループの各システムの実情はどうなっているのか、どんな問題があるのかを明らかにしてもらってはどうか。

などの意見が出され、神田委員、佐々木委員の両氏に問題点を整理してもらうことになった。

(資料.1) ; 原子核専門委員会・物理学研究連絡委員会報告

原子核専門委員会報告(湯田委員) 2000年2月22日 (次回は5月11日)

(1) 各研究所報告

核物理センター(阪大)

レーザー光を逆コンプトンでたたき上げて 2.4GeV のガンマ線ビームが出来た。
強度は $5 \times 10^6/sec$ 。

KEK

KEKB BELL 実験

10月12日から運転再開、真空洩れ修理ののち2月からルミノシティー最大。最終的に $1 \times 10^{33}/cm^2sec$ 。最高一日当たりの積分量は 48/pb、BELL は今までに 0.8/fb のデータ収集(BBbar が 80 万イベントに相当)。夏までに約 5/fb を期待。

長基線ニュートリノ振動(K2K)

早い取り出し期間; 10月30日~11月24日、1月14日~3月24日

昨年データ; SK での期待値(振動が無い時)約12に対して、観測値は3イベント。

今年に入ってからデータ収集は順調。きれいな CC のミュオンイベントも観測。

電磁ホーンが完全でないので改良予定。

大強度陽子加速器計画(KEK + 原研)

文部省、科技庁共同の第3者レビュー中。運営体制が原研側と噛み合わない(共同利用に対する不信?)。H12年度内示は中性子科学研究(原研)3,102百万円、陽子加速器高度化の技術開発(KEK)214百万円。

素粒子国際センター(東大、4月からセンター長は駒宮氏)

2003年に10年の時限が来る。LEP は順調にエネルギー上昇。

一昨年 189GeV → 昨年 5月 192GeV、10月には 202GeV と、204-206GeV まで可。

ヒッグス、超対象性粒子等の探索を行っている。Higgs の質量 110GeV まで探索する。

気配もない時は中止(7月に LEP Committee で決める)。

(2) 各グループ

理論

素粒子サブグループ責任者; 青木氏(筑波大)。原子核サブグループ責任者; 赤石氏(KEK 田無)

核物理

核物理委員会委員の選挙中。2001年秋の分科会(宇, 理, 高は沖縄)はアメリカ物理学会と共催でハワイ。

高エネルギー

JHF についてのワークショップ。

JHF に HE のどんなグループが含まれているか、その活動状況を知るため。
リニアコライダー。

1986 年から高エネルギー次期基幹計画になっているリニアコライダー推進委員会。
次回に R & D レビュー。

(3) 国際交流

IUPAP

2003 年の国際会議申込は 12 月末締め切り。現在のところ宇宙線国際会議だけ。
物研連に推薦を決めた。

ICFA (2 月 10-11 日 Rutherford Lab)

Global Science Forum 準備委員会 *leftarrow* ICFA とは無関係。

高エネルギー物理の計画を役人レベルで議論する。4 月にどのような WG を作るか、組織等
について議論する。

Linear Collider

GSF の政治的足枷がかかる前に、JLC の独自プランを作る必要がある。5 月には設計と
予算を報告する。

物理学研究連絡委員会報告 (山本委員)

2000 年 2 月 23 日 (今期の最終回は 5 月 12 日)

第 28 回宇宙線国際会議日本開催を学術会議へ推薦決定。しかし学術会議共催は 1 年に 8 件。
トカマク・プラズマ核融合炉 (ITER) 検討小委報告。物研連側は「基礎研究の重要性」X 5 部
の核融合研連側は「実用、エネルギー生産が特別の意味あり」を主張。学術会議として統一
意見を出すかどうか重要課題。

科研費審査委員、核関連は物理学会から推薦された 12 名から核専委の小委員会で 6 名推薦する。
公表しない。

新物研連委員の選出。核関連 (宇, 理, 高, 原) は「学術会議会員 + IUPAP + 各分野」で
バランスとる。

天文研連から LMSA 計画の説明 (福井他 2 名)。

10m 径 50 台 (400 億円)、水蒸気量少ないアタカマ砂漠 (5000m)。

戸塚委員が Telescope Array 計画について説明、協力を訴え。

10 Stations で日本国土の 1/6 カバー (64 億円)。

物理教育問題小委の中間報告と議論。今後採用される教科課程・教科書の研究の重要性が確認
された。新課程では 2006 年大学入学生から波動の式 $\sin(2\pi t/T + x/\lambda)$ や対数 (log) を知ら
ないことになる。ICU の学生は良い。発言する力、思考する力が養われている。「英語教育」が
「物理教育」をカバー。

(資料.2) 第 1 回 2003 年宇宙線国際会議準備委員会議事録

日 時 : 1999/11/27、13:00-15:00

場 所 : 東京大学宇宙線研究所

出席者 : 太田 (宇都宮大)、黒田 (宇宙線研)、坂田 (甲南大)、鈴木 (宇宙線研)、寺沢 (東大理)、
福島 (宇宙線研)、松岡 (宇宙開発事業団)、村木 (名古屋大)、湯田 (宇宙線研)、
山本 (甲南大)、梶田 (宇宙線研)、(書記 ; 金行 (宇宙線研))

(1) 宇宙線国際会議準備委員会の役割について

宇宙線国際会議準備委員会の役割とそこで議論する事、および 2003 年宇宙線国際会議開催
のいきさつ経緯について説明があった。(坂田)

- (2) 日本学術会議への申請と今後のスケジュールについて
 日本学術会議への申請に向けてのタイムスケジュール、申請に必要な書類等について説明があり(梶田)、タイムスケジュールその他について議論した。学術会議への申請のために、
- (a) 日本物理学会から共同主催の承諾をもらう。
 - (b) 2/22,23 に物研連委員会が開かれる予定であるので、それまでに開催場所、及び時期、期間を決定する必要がある。尚、物研連で議論してもらい、委員長名で副申をだしてもらい必要がある。
 - (c) 学術会議が5月の予定なので、それまでには申請書を作成する必要がある。

(3) 会議場所の決定方法

これまでの会議場所選定の経緯説明があった(梶田)。
 国際観光振興会に依頼して、国内の各都市について会場を探し見積りを出してもらった。会議場所選定で考慮すべき点について議論した。

- (a) 交通手段(主要国際空港に近いか、新幹線などで簡単に行ける所)、
- (b) 会場、宿泊施設、料金、coreとなるグループがあるか、
- (c) 自治体等からの助成金等

を考慮すべきとの意見があげられた。各候補地について議論をおこない、候補地を5箇所に絞り込み、担当者を決め、次回までに調査する事にした。

仮候補地名：コメント：次回までに調査するか否か：調査担当者

- 仙台 : core が無い
- 東京 : 会場代が高い
- 横浜 : 会場代が高い
- 幕張 : 会場代が高め、宿泊料金は安い、昼食が不便? : : 手嶋
- つくば : 宿泊施設が足りない、会議場所として面白くない(?) : : 福島
- 静岡 : core が無い
- 名古屋 : 暑い、他は問題無し : : 村木
- 長野 : 宿泊施設は十分にあり安い、東京から新幹線で直接行ける、涼しい : : 梶田
- 松本 : 会場が無い
- 高山 : 交通手段が問題、乗り気の回答が来てない
- 京都 : 前回、前々回の ICRC をやった
- 大阪 : ICHEP をやったばかり
- 神戸 : 宿泊施設が高い(?), 大阪より神戸が良い : : 坂田、山本

会場について必要な部屋の大きさ、数を再確認した。

Opening、招待講演	700 人
OG	300 人
SH	150 人
HE(+neutrino)	150-300 人
GW+X	150 人
(合計)	700+300+150x2)

Poster	300 人相当
端末	50 台
事務局	3 部屋
meeting	3 部屋
Banquet のできる場所	

- (4) 日本物理学会への共同主催について
 物理学会への共同主催の申請書案について議論した。

- (a) IUPAP が後援なのか主催なのか再確認をし、それに合わせて会議の性格と目的を書き直す事にした。
 - (b) 日本開催の意義、その他に関していくつか変更案が出されたので、それを取り入れた申請書案を再度作成し、各委員の了承を得た上で物理学会に送る事にした。
- 追記：日本物理学会の12月の理事会にて、「共催」の形で承認された。

(5) 予算規模について

参考資料等に基づき予算規模を議論した。また、ニュートリノ98の時の状況も参考意見として出された。その結果予算規模として4000万円程度で考えていくことになった。

その他に：

- (a) 後進国からの参加者への援助をどうするか等の議論が行われた。
- (b) 開催の時期として7月の半ばから8月前半(8月後半はUSが新学期に入る)

(6) 暫定組織委員会の編成に向けて

暫定組織委員会の編成について議論の議論が行われた。

(資料.3) 第2回2003年宇宙線国際会議準備委員会議事録

日 時：2000/01/05、13:00-16:00

場 所：東京大学宇宙線研究所

出席者：荒船(宇宙線研)、太田(宇都宮大)、木舟(宇宙線研)、黒田(宇宙線研)、坂田(甲南大)、鈴木(宇宙線研)、寺沢(東大理)、松岡(宇宙開発事業団)、村木(名古屋大)、湯田(宇宙線研)、山本(甲南大)、梶田(宇宙線研)、(書記；金行(宇宙線研))

(1) 第1回宇宙線国際会議準備委員会議事録について

議事録案に対し、第1回委員会であるので、宇宙線研がホストであることを明記することまた、IUPAP が後援であるか主催になるのかについて調査結果を載せる様意見が出された。(追記：上記の通り訂正)

(2) 会議場決定に向けた議論

前回委員会で決定した担当者から各候補地に対する調査報告があった。候補地と報告者は以下の通り。

- 神戸 (坂田、山本)
- 名古屋(村木)
- 長野 (梶田)
- 千葉 (手嶋(欠席のため代理で梶田が報告))
- つくば(福島(欠席のため代理で黒田が報告))

上記の報告を聞いた後、候補地決定のための議論を行った。

概ね、会場経費は同程度で、その他の項目に関しては、全ての候補地が一長一短あり、明確な優劣は無い様であった。しばらくの議論の後、参考のため投票し適切な候補地に対する意見分布を見た。その結果千葉だけが他に比べて推薦する人が少なかったため、千葉は一応この時点で候補地からはずすこととした。

他の候補地に関しては、その後の議論でも明確な優劣がつかなかったため、結局、委員長が複数のメンバーと各候補会場を回り、候補地に対する順位をつけ(2月上旬まで)、その結果を基に最終的に準備委員会で候補地を決定することになった。

(3) その他

- (a) 重力を2003年の国際会議で含めることに対し、なるべく早く C4 chairman T.K.Gaissner 氏

に連絡して、了承を得るべきであるとのことになった。

(追記： T.K.Gaisser 氏に連絡して、了承を得た)

- (b) International Advisory Committee メンバーは2月の物研連の時には、少なくとも候補者が学会議に申請書を提出する時には決まっていけないので、戸塚宇宙線研究所所長とも相談のうえ、なるべく早く、行動を起こす必要がある。
- (c) なるべく早く具体的準備作業を行う暫定組織委員会を編成すべきであるとの意見がでた。
- (d) 次回委員会は、何も問題無ければ、電子メールでの委員会として候補地を決定する。時期は2月中旬。

(資料.4) ; 宇宙線物理学賞および宇宙線物理学奨励賞 要綱 (案)

- 1. この賞の授与によって、宇宙線物理学の発展に寄与した研究者を見えるかたちで評価すると共に、若手の研究者の激励と育成に貢献できること、もって宇宙線物理学の発展に寄与することを期待して本賞を設ける。
- 2. 対象分野は宇宙線物理学。但し、極めて重要な影響を与える近隣分野を含む。
- 3. 選考委員および同委員長は、CRC 実行委員会で選出し、構成は委員長の他に
宇宙線実験関係者 3 名、
理論関係者 1 名、
高エネルギー実験関係者 1 名、
天文学関係者 1 名
とする。
- 4. 締め切りは9月末、選考は10月～12月の間に行ない、12月末に発表する。
春のCRC総会で授与式を行い、学会で特別講演を依頼する。

宇宙線物理学賞

- 1. 対象者は宇宙線物理学に極めて重要な貢献を与えた業績を行なった研究者。
- 2. 1年に一回の選考で各回1名まで。該当者が無い場合も含む。
- 3. 候補者はCRC会員の推薦または応募により募る。年齢、発表時期への制限を設けない。
- 4. 賞金1件10万円をCRC経費より支出する。

宇宙線物理学賞奨励賞

- 1. 過去5年間に発表された論文のうち、将来、重要な貢献が期待でき奨励に値する論文。
- 2. 1年に一回の選考で各回2名まで。該当者が無い場合も含む。
- 3. 対象は、CRC会員の推薦または応募とする。公表時(脚注)35才以下の若手による論文を対象とする。但し、学位論文を重視する。共同研究に基づく論文では、対象者の寄与が本質的である事。
- 4. 賞金(または授与式への旅費)1件5万円程度をCRC経費より支出する。

(脚注) 博士論文は正式審査を通過した時点、他の論文は雑誌に掲載もしくはプレプリントが発行された時点とする。

***** < 平成 11 年度第 4 回 CRC 実行委員会議事要録 > *****

日 時 : 平成 12 年 3 月 30 日、17:15 ~ 19:00

場 所 : 近畿大学 日本物理学会 SH 会場

出席者 : 坂田通徳 (委員長)、梶田隆章、神田展行、佐々木真人、柴田徹、村木綏、吉井尚、川村静児 (以上委員)、林田直明 (事務局);(敬称略)

(1) 事務局報告 (林田)

(a) メール配信 (2000.02.26 実行委以降)

公募 3 件; 3/7; 青学大理工教員、3/25; 阪大原子核施設教授、3/29; 阪大原子核施設研究員報告; 3/7; 阪大核物理センター運営委員会; 3/7; Electron Proton Interaction with High Transverse Energy
その他; 3/29; 「ベトナムへの書籍寄贈」のお願い

(b) 選挙時期; 宇宙線研の柏移転、計算機環境の新整備のために選挙時期が 4/12 ~ 4/26 頃。

(c) 連絡誌の発行;

年 1 回の発行では記事数が多過ぎ、読み難い。

→ 委員会報告以外は項目だけにする、などの工夫をする。

電子メールを持っていない会員 (84 名=26 %) に対して速報性がなく不公平。

→ 発行作業や経費の工夫をした上で、年 2 回程度にする。

(2) 入退会申込者

(a) 下記の退会申込者が紹介され、退会が確認された。

木野 茂 (大阪市大)、太田 清 (埼玉大)

(b) 2 月 26 日の実行委員会で入会申込された松田充史氏が、急拠就職したので、入会を取り消したい、との推薦者の申し出があり、了承された。

(c) 会費の長期滞納のための退会者が、7 名いる。

(3) 平成 11 年度 CRC 会計収支報告・会計監査報告 (平成 12 年 3 月 29 日現在、会計: 宇宙線研 岡田淳)

収入 :	前期繰り越し	829,801	円
	会費	538,090	(振込 442,090、現金 96,000)

合計	1,367,891	円
----	-----------	---

支出 :	実行委員会	7 月	48,634	円
	実行委員会	2 月	252,572	
	会誌等郵送費		20,440	
	謝金 (開票等)	4 月	6,000	
	会誌等郵送費		9,280	
	謝金 (事務作業)		4,000	
	振込用紙印字サービス費		700	
	印鑑		7,140	
	弔電		4,300	

合計	353,066	円
----	---------	---

収支残高 :	1,014,825	円
--------	-----------	---

上記報告通り適正に処理されていることを認めます。

平成 12 年 3 月 29 日

会計監査

日比野 欣也

本田 建

- (4) 宇宙線研共同利用運営委員会報告 (坂田)
主任制度を廃止する案が共運委で議論されたが、共同利用サービス責任者、装置の維持責任者、予算要求書に所員が必要などの問題があり、今後も議論していくことになった。プロジェクト・リーダーが主任に代わり得るか、部の再編をするか、などの問題にも関連して議論されるであろう。
- (5) 総会準備
- (a) CRC 事務局の分業化の案を説明し、了承を頂く。
 - (b) CRC 奨励賞制度案について、総会で審議して頂く。特に宇宙線物理学賞は、前回の総会以後に提案されたものであり、是非議論が必要。
 - (c) 名誉会員制度案を審議して頂く。
 - (d) 活性化について
広く一般会員に、メールで意見を聞く。
それらを含めて、坂田、神田、佐々木委員でまとめて、「提言文」を作成する。
 - (e) 議長 → 神田展行氏を推薦することになった。

CRC Homepage 速報-103, CRC News No.156 ; 2000 年 5 月 23 日配信

***** < 平成 11 年度第 2 回 CRC 総会議事要録 > *****

日 時 : 平成 12 年 3 月 31 日、17:25 ~ 19:00

場 所 : 近畿大学 日本物理学会 SK 会場

出席者 : (敬称略五十音順) 荒船次郎、伊藤好孝、井上直也、榎本良治、大内達美、大林由尚、笠原克昌、梶野文義、金行健治、亀田純、川口節雄、神田展行、菊池順、木舟正、倉又秀一、黒田和明、小早川恵三、齋藤敏治、坂田通徳、佐々木真人、柴田徹、杉本久彦、鈴木洋一郎、田村忠久、手嶋政廣、戸塚洋二、中畑雅行、西嶋恭司、林嘉夫、林田直明、日比野欣也、福島正己、堀田直己、増田公明、松岡勝、松原豊、三浦真、水谷興平、村木綏、森山茂栄、安野志津子、山本嘉昭、湯田利典、吉越貴紀 (以上 44 名)

議長選出

実行委員会からの推薦で、神田展行氏にお願いした。

報告 1. 事務局 (林田)

- (a) 御逝去 ; 平成 11 年 11 月 12 日、立教大の 蓬茨 霊運 様 が御逝去されました。
謹んで御冥福をお祈り致します。
- (b) 退会者
木野 茂 (大阪市大)、太田 清 (埼玉大)
3 月 30 日の実行委員会で、了承された。
- (c) お知らせメール配信
委員会報告;7 件、公募案内;9 件、研究会案内;10 件、その他;17 件。
(詳細は、CRC Homepage の「速報」に掲載しています。)
- (d) 平成 11 年度 CRC 会計収支報告・会計監査報告 (会計 : 岡田 淳)

収入合計 (繰越含)	1,367,891 円
支出合計	353,066 円
収支残高	1,014,825 円

(詳細は、平成 11 年度第 4 回 CRC 実行委員会議事要録を参照)

上記報告通り適正に処理されていることを認めます。平成 12 年 3 月 29 日
会計監査 日比野欣也 (神奈川大)、 本田 建 (山梨大)

報告 2. 宇宙線研究所 (戸塚)

(a) 人事 ; 湯田利典教授 退官

所研究員 2 名追加 → 3 名となる。

COE 研究員 4 名

(b) 外部評価委員会 ; 2 月 1、2 日に行なわれた。

小田稔先生以下 4 名で、研究の現状と将来計画の評価をお願いした。

近日中に結果が出る予定。

(c) 所は柏新キャンパスに移転した。 ;

共同利用研究にお越し頂きたい。共同利用宿舎と食堂は、5 月から運用の予定。

(d) 平成 13 年度概算要求には、所として、TA 計画を重点として推し進めていく。

報告 3. 原子核専門委員会 (湯田委員)

* 日時 ; 2000 年 2 月 22 日 (次回は 5 月 11 日)

(1) 各研究所報告

核物理センター (阪大)

レーザー光を逆コンプトンで叩き上げて 2.4GeV のガンマ線ビームが出来た。

強度は $5 \times 10^6/sec$ 。

KEK

KEKB (BELL 実験)

10 月 12 日から運転再開、真空洩れ修理の後、2 月からルミノシティ最大。最終的に $1 \times 10^{33}/cm^2 \cdot sec$ 。最高 1 日当たりの積分量は 48/pb、BELL は今までに 0.8/fb のデータ収集 (BBbar が 80 万イベントに相当)。夏までに約 5/fb を期待。

長基線ニュートリノ振動 (K2K)

早い取り出し期間 ; 10 月 30 日 ~ 11 月 24 日、1 月 14 日 ~ 3 月 24 日

昨年のデータ ; SK での期待値 (振動がない時) 約 12 に対して、観測値は 3 イベント。

今年に入ってからデータ収集は順調。きれいなミュオンイベントも観測。

電磁ホーンが完全でないので改良予定。

大強度陽子加速器計画 (KEK + 原研)

文部省、科技庁共同の第 3 者レビュー中。運営体制が原研側と噛み合わない (共同利用に対する不信?)。H12 年度内示は中性子科学研究 (原研) 3,102 百万円、陽子加速器高度化の技術開発 (KEK) 214 百万円。

素粒子国際センター (東大、4 月からセンター長は駒宮氏)

2003 年に 10 年の時期が来る。LEP は順調にエネルギー上昇。

一昨年 189GeV → 昨年 5 月 192GeV、10 月には 202GeV と 204-206GeV まで可。

ヒッグス、超対称性粒子等の探索を行なっている。Higgs の質量 110GeV まで探索する。

気配もない時は中止 (7 月に LEP Committee で決める)。

(2) 各グループ

理論

素粒子サブグループ責任者 ; 青木氏 (筑波大)

原子核サブグループ責任者 ; 赤石氏 (KEK 田無)

各物理

核物理委員会委員の選挙中。2001 年秋の分科会 (宇, 理, 高は沖縄) はアメリカ物理学会と共催でハワイ。

高エネルギー

JHF についてのワークショップ

JHF に HE のどんなグループが含まれているか、その活動状況を知るため。

リニアコライダー

1986 年から高エネルギー次期基幹計画になっているリニアコライダー推進委員会。

次回に R & D レビュー。

(3) 国際交流

IUPAP

2003年の国際会議申込は12月末が締め切り。現在のところ宇宙線国際会議だけ。
物研連では推進を決めた。

ICFA (2月10-11日 Rutherford Lab)

Global Science Forum 準備委員会 *leftarrow* ICFA とは無関係。

高エネルギー物理の計画を役人レベルで議論する。4月にどのようなWGを作るか。組織等について議論する。

Linear Collider

GSFの政治的足枷がかかる前に、JLCの独自プランを作る必要がある。5月には設計と予算を報告する。

報告4. 物理学研究連絡委員会 (山本委員)

*日時; 2000年2月23日(今期の最終回は5月12日)

第28回宇宙線国際会議日本開催を学術会議へ推薦決定。しかし学術会議共催は1年に8件。
トカマク・プラズマ核融合炉(ITER)検討小委報告。物研連側は「基礎研究の重要性」X5部の核融合研連側は「実用、エネルギー生産が特別の意味あり」を主張。学術会議として統一意見を出すかどうか重要課題。

科研費審査委員、核関連は物理学会から推薦された12名から核専委の小委員会で6名推薦する。公表しない。

新物研連委員の選出。核関連(宇,理,高,原)は「学術会議会員+IUPAP+各分野」でバランスとる。

天文研連からLMSA計画の説明(福井他2名)。

10m径50台(400億円)、水蒸気量の少ないアタカマ砂漠(5000m)。

戸塚委員がTelescope Array計画について説明、物研連はこの計画を支持することになった(64億円)。

物理教育問題小委の中間報告と議論。今後採用される教科課程・教科書の研究の重要性が確認された。新課程では2006年大学入学生から波動の式 $\sin(2\pi t/T + x/\lambda)$ や対数(log)を知らないことになる。

報告5. 素核研(KEK)、阪大RCNP研、名大STE研(村木)

(KEK運営協議会); 1月14日(第15回); (詳細は、CRC Homepage 速報-72を参照)

菅原機構長の報告

- (1) 学術審議会の加速器部会は、今期3月で終了する。科学技術会議に統合されるが、加速器部会が残るかどうかは不明。引き継ぎ事項を検討中。
- (2) 独法化について共同利用研の意見が広く分布しておりまとまりにくい。大学の自立性(学問の自由)の確保、中期目標の自主的決定は尊重されなければならない。共同利用研が大学と一緒に進んでいくことは行革審に認めもらったが、法人格を持ったからといって自主性が保証される訳ではないので要注意。
- (3) 文部省の評価機構。科研費の審査会のような組織を検討しているようだ。教官14名を決め、評価の在り方の研究や、評価するデータの研究をする。事務官は52名。運営協議会や評議会ができる。あらゆる分野をカバーする委員会ができる。10個位の小委員会の下に分科会が作られ、そこが実行にあたる案。2月中に結論がでる。

(KEK運営協議会); 2月4日(第16回); (詳細は、CRC Homepage 速報-74を参照)

菅原機構長の報告

- (1) 学術審議会の最終総会が2月1日あった。バイオサイエンスの推進を建議。21Cは生物学の時代であると言っている。加速器関係では原子力部会と加速器科学部会合同の統合計画評価委員会を設けて評価作業中。省庁再編に伴って学術審議会も改編となるが、大方の委員は再任の予測。
- (2) COE関係では、今期7件を認めた。日欧国際ニュートリノ振動実験(Opera)、海洋生命系ダイ

ナミックス等。重力波天文学と初期宇宙センターの2年延長も認めた。宇宙線研の線ポイントソースも認めた。物理関係は低調だと言われているので、いい計画を提案してもらいたい。

(3) ICFA 関連

OECD で高エネルギー物理に関し global science forum に向けた動きがある。政府関係者も入れて議論すべきであるとの意見が米には強い。しかし、ICFA としては研究者が主体となって、グローバル lab の可能性をまず追求したい。remote control で運転する加速器の建設、国際的な共同研究体制の実現を目指したい。研究者の考えがまとまった段階で、政府に働きかける。

(RCNP 運営委員会); 2月2日; (詳細は、CRC Homepage 速報-80 を参照)

LEPS (SPring 8 を使った実験):

最終的にレーザー強度を 5w に上げ 5×10^6 /秒までゆくことがわかった。2000.3 より実験開始。中間子光生成実験を3月 - 6月実施する。2000.4 共同利用実験開始。Q-PAC で決める (RCNP の人を含んでいないと利用できない。事故が起こった時の責任の問題から)。2001~2002年に偏極ターゲットを用いた実験を開始。

Numatron について

旧核研の Numatron の Tarn II の移管の可能性について、KEK 物質構造研所長の木村氏から打診があった。RCNP 内部で検討した。1.1GeV1nA で加速可能である。しかし15億円が要る。12月13日,14日中期計画を考えるワークショップが開かれ検討したが、Tarn II の移転はしないことに決めたとの所長報告があり、運営委員のメンバーから、もう少し慎重に考えるべきではなかったかの強いコメントが複数の委員から出された。センター側からは、維持するために、新しく15億円が必要となり4人のスタッフが要る。世界的な物理を出せるというプランを研究者集団自身からだしてもらいたかった。マンパワーや維持費の見込みがたたないからだとの見解が示された。センターの将来構想にも関連しており、eA collider (Perl 計画) や、AVF/RING の性能向上、ECR イオン源の移管の話もあり、次回運営委員会でセンターの将来計画の話を整理することになった。

(STE);

さこ隆志氏を助手に採用。

藤本和彦氏が名古屋女子大に転出されたので、教授又は助教授を公募、締切は5月19日。名大環境研究科ができるので、STE 研から4,5名移ることになった。

報告6. 宇宙研、NASDA (松岡)

(宇宙科学研究所)

2000.02; X線天文衛星 Astro-E 打ち上げ失敗。

MV4号機のノイズ部分の熱絶縁関係の不具合で、衛星が軌道に載らなかった。

→ 原因を究明し、今後の対策を検討中。

→ Astro-E II 復活に向け努力中、一発勝負の研究分野の困難さ!

2000/2001; 衛星の打ち上げなし。

2002 ; 中期: MUSES-C(小惑星 [1989ML] 物質の sample return)。後期: Lunar-A。

2003 ; Astro-F (赤外天文衛星 IRIS)

2004 ; Solar-B

(宇宙開発事業団 NASDA)

1999.11; H-II 8号機の失敗 → 回収し原因究明中。

今後の主力ロケット H-II A は、併行して開発進行中。

2003 ; SELENE(月周回衛星) NASDA/ISAS 共同ミッション。

H-II A で打ち上げ NASDA/ISAS 共同研究の最初。

宇宙ステーション JEM → 宇宙環境利用研究システム: 招聘研究員組織。

SEDA ~2003-4 シャトル打ち上げ。

LCDA,MAXI,SIMLES ~2004-5 H-II A (HTV) で打ち上げ。

H IIA の主力衛星に同乗する 50kg 級の小型衛星を公開：2000-2001
MDS-1：NASDA, WEOS(鯨生態観測衛星)、DASH(再突入実験機)：ISAS
国際協力；HETE II；2000.06、GLAST；2004 頃
その他；高エネルギー宇宙物理学連絡協議会(高宇連)の発足

報告 7. 第 28 回宇宙線国際会議(坂田)

準備状況

- 1999/11/27、第 1 回準備委員会 → 候補地 5ヶ所を検討。
- 1999/12 月、日本物理学会の共同主催が決定。
- 2000/01/05、第 2 回準備委員会 → 候補地を 4ヶ所にしぼる。
- 2000/1,2 月、候補地現地調査
- 2000/2 月中旬、第 3 回準備委員会 → (場所) つくば国際会議場、
(日程) 7/31(木) ~ 8/7(木) に決定。
- 2000/2 月、物研連に概要説明書を提出し、承認された。

今後の予定

- 4/01 に第 4 回準備委員会をおこなう。
- 5 月、学会に「主催」を申請。
- 5 月末までに、IUPAP-C4 にサポートを申込む。

報告 8. 実行委員会報告 - CRC 選挙(坂田)

- (1) 宇宙線研の柏移転直後と時期が重なり、事務局の都合上、今回の選挙は 4 月に入ってから始めることを了承した。
- (2) 「委員会構成の「若返り」を促進させるために、若い人を選んで頂けることを期待します」という実行委員会からの呼びかけの文を選挙公示に明記することとした。
- (3) 今回は、物研連・核専委推薦候補者の選挙も実施する。
- (4) 昨年と同様に、郵送投票と電子メール投票とを実施する。

議題 1. 事務局の分業化

- (1) 宇宙線研では、会員との連絡や機械的な事務作業に専念する。
CRC News 配信、名簿、会費、連絡誌、ホームページ、選挙事務などの業務は今までと同じ。
- (2) 実行委員会と総会の準備から議事要録作りまでは、担当大学でやって頂く。
2000 年度から 1 年間の担当を埼玉大学にお願いしており、内諾を得ている。
(詳細は、2 月 26 日の実行委員会議事要録を参照)
詳細の説明をおこない、承認が得られた。

議題 2. 名誉会員制度

退官、現役引退の会員を対象とする、名誉会員制度を新設すべきとの意見が出ているので、その資格年齢、会費、選挙権、名称、ご本人の意向など、実行委員会で議論されている問題点が紹介され、今後とも検討していくことになった。(詳細は、2 月 26 日の実行委員会議事要録を参照)

議題 3. CRC 奨励賞制度

実行委員会で検討されている、この制度の要綱案が紹介された。
(詳細は、2 月 26 日の実行委員会議事要録を参照)

(討論)

- 選考委員に、外国人も入れてはどうか？
- 奨励賞は、1 名の方が重みがあって良いのではないかと？
- 「2 名まで」という原案には、0 名、1 名も含んでいる。
- 「物理学賞」は、初めての提案でもあり、慎重に進めたほうが良い。
- 「奨励賞」は、早急にスタートさせるべきである。

などの意見が出され、原案が大筋では認められたが、更に検討すべき部分もあるので、次期の新実行委員会で議論して頂くことになった。

議題 4. 大学の活性化について

今後の方針 (坂田)

- 1) まとめと今後について、現実行委員会 (担当 ; 坂田、神田、佐々木委員) で
 - (a) 今までの議論をまとめる。
 - (b) 今後への提言 (案) を作る。
- 2) 広く CRC 会員からの「意見」、「アイデア」を加える。
- 3) 長期計画立案の基となる「大風呂敷」的な研究会を開く。
(討論)

TA の様な当面の大型計画が通ることが、活性化につながるのでは。

「CRC 関連大学」の活性化を課題としているのであり、「所」の問題だけではなく、もっと広い視野を持つべきである。

最近、宇宙線シンポジウムに、他分野の人も多く出て来ているので、他分野との交流も意識して、彼らの関心を得る様な工夫があっても良いのではないか。

これらについて、次期実行委員会で検討することになった。

CRC Homepage 速報-93 , CRC News No.143 ; 2000 年 4 月 25 日配信

***** < 大阪大学核物理センター (RCNP) 運協報告 > *****
(文責 : 村木 綏)

日 時 : H12 年 4 月 22 日 10:30 ~ 19:00

報告事項 : 所長報告

- * サイクロトロン実験採択委員会 (B-PAC) が 2 月 29 日に開催された。7 つの実験を採択。
- * 研計委 (P-PAC) が 3 月 21 日に開催された。委員長に藤原さんが選出された。
- * RCNP に教授会ができた。

各部報告 :

- *(1-a) WS ビームラインを整備した。ビームエネルギーの高分解能化が目的。 $E = 13 \sim 20\text{keV}$ を達成した。加速器が非常に安定稼働している。12 時間無調整で稼働した。
- *(1-b) SPring 8 で 2.5×10^6 光子/秒の光子ビームが得られた。
始め CH で、次に液体水素標的を使い、グルーボールを検出する。
- *(1-c) He3 + He3 のデータが取れた。ガモフピーク近辺の $E_{cm} = 20 \sim 25\text{keV}$ で、1mA を目指す。
- *(2-理論) CAOS 計画を始め、7 つのテーマを追求中。新しい計算機が 12 月から稼働する。

議 論 :

- * 将来計画を念頭に置いた加速器開発をすべきではないかとのコメントが出た。
- * 研計委の委員長が、内部の幹事と共通なのは、共同利用研のスタンスとして、今後避けた方がよいとの意見が出た。
- * RCNP の教授会設置は、大阪大学全体の動きとして必要であった。それに伴う運協の規約の変更に関しては、事前に書類を回してもらいたかった。

協議事項 :

- * H12 年度予算配分案を了解した。
- * H13 年度概算要求を了解した。
- * 教授会設置に伴う運協規定の改正と運協の内規の制定を了承した。新しい内規では所長の諮問に応じて、研究体制の整備、年間計画、センター長候補、教官人事の基本方針等について審議することになった。
- * 1b 部門の教授人事を慎重に審議のうえ、教授会に候補を推薦した。

***** < KEK 運協報告 > *****

(文責：村木 綏)

日時：6月16日 11時～17時

菅原 機構長報告

- * 新プロ：新しい計画の審査中。
- * 加速器部会関係：KEK と原研の統合計画について、文部、科技庁合同の評価委員会が最終答申を準備中。
- * 独立法人化：文部省賢人会の下に、調査検討会議が作られる。そこに4つの部会を設け、基本的事項、目的・中期計画・評価、人事、財政について検討する。更に、相互の関連を検討する部会も出来る。H13 年中に審議を終了し、特例法の策定に移る。調査委員会各部会は15名で、大学共同利用機関からも各部会に1名入る予定。
- * 評価機構：評価委員会のメンバーは、各分野から30名が選ばれる予定。7月1日公表され、その後専門委員が選ばれる。学会や学部に依頼することになる。評価法についてはフォーマットを作って実施。学部研究科単位が原則である。テーマ毎だと大学が単位になることもあり得るだろう。

山田 素核研所長報告

- * 各種所内運協、評議会、機構評議会に関する報告があった。研究活動、本年度概算要求の内示報告が主。
- * レプトンコライダー諮問委員会：KEK-B factory の review committee の報告の他、BELLE の状況、LC 開発の状況報告と議論があった。
- * 日米科学委員会：3月にH12年度の日本側の予算案を作成、6月1日～2日の日米合同委員会にて決定。非加速器物理学に関する提案の取り扱いをWGにて検討、その方針を了承、H12年度はその線に沿った計画とした。大プロジェクトは、ほぼ昨年と同じ。
- * 大学共同利用機関所長懇談会：独立行政法人化に関する上記の動きへの対応と、第10次定員削減（H13年度から10年間で10%の定員削減）についてのアピール文を協議した。
- * 共同開発研究計画審査委員会：H12年計画として、約40件を承認した。予算の厳しい状況のため、共同研究費が昨年の半分の5000万円程度になった。
- * OECD 関係：グローバルサイエンスフォーラムに高エネルギー物理のWGを設けるかどうか検討するためのワークショップが開かれ、まずは全体を見渡す様なコンサルトグループを作り、1年後に再度WG設置について再検討することになった。

研究活動報告

- * BELLE(高崎史)：これまでに5fb-1のデータを得た。夏の国際会議までに7fb-1のデータが取れ、解析できる見通し。
- * K2K(山田)：神岡でのfiducial内のニュートリノ反応は期待約30例に対し、現在17例が観測されている。ビームのモニター、近置測定器の事象等は予測通りの性能を示している。カナダの国際会議で報告。この調子のデータ取得スピードだと、当初計画の 10^{20} POT に到達するまで、あと4年かかる。
- * 共通学(近藤)：田無SFサイクロトロン放射化コンクリートの量がドラム缶で数千本になる見込み。東大がアイソトープ協会に引き取ってもらうことになっている。8/8～10にEGS4の研究会が開かれる。
- * 大型ハドロン(永宮)：4月14日の第三者reviewでは、計画の総額が増したこと(総額1890億円)に厳しい雰囲気であったが、最近は逆にpositiveに変わっていている。
- * その他(山田)：統合計画発足に当たっては、KEKもどこかの現存経費を削る様に迫られると想定される。その場合、関連の深いPS関係の運転経費や実験経費から捻出するしかないが、K2Kはじめ現場では、3年間は現状規模の維持を希望している。

協議事項

人事：理論部教授に岡田安弘さん、第3研究系助教授に田中真伸さんを所長に推薦することとした。

人事任期制：所長から以下の報告と提案があった。

WGの提案を運協が了承し、研究所としての対応が宿題になっていた。所では人事交流促進WGを作って、人事交流に努める一方、そこで対応も検討し始めた。今後、定年退職者が毎年数名以上出る状況になることも考え、若干の任期付きポストを導入する方向で検討を詰めている。その際は、任期付きと任期なしのポストを区別して公募することになる。(従来のモラル任期付きの公募はなくなる。)

並行して、任期なしの教官に対する評価システムを検討し始めた。同様のシステムが従来のモラル付きポストから任期なしポストへの移行希望者に対しても適用され、評価の結果に沿って移行できる。検討を進めた段階で、また報告し、議論を願う。

これに対して、評価の際に運協が関与するかどうか、移行に際して運協の承認を要するかどうか等について意見交換があった。

人事計画：空きポスト5の利用法について所長から人事方針の諮問があった。共同利用に関係して空席が支障となっている部署を優先したいとの方向が示され、議論の結果、その方向で次回に具体的な提案を出してもらうことにした。

CRC Homepage 速報-122 , CRC News No.176 ; 2000年9月5日配信

***** < 会 報 > *****

CRC 会員 各位

2000年9月5日

CRC 事務局 埼玉大学 水谷興平、井上直也

「平成12年度第1回CRC実行委員会議事要録」を送付致します。

***** < 平成12年度第1回CRC実行委員会議事要録 > *****

日 時：平成12年7月15日、10時30分～17時00分

場 所：東大宇宙線研 柏キャンパス 大セミナー室 A

出席者：坂田通徳(甲南大：委員長)、村木 綏(名大STE研)、谷森 達(京大)、梶田隆章(ICRR)、神田展行(宮城教育大)、手嶋政廣(ICRR)、長谷部信行(早稲田大)、太田 周(宇都宮大)、松岡 勝(宇宙開発)、宗像一起(信州大)、水谷興平(埼玉大)、西嶋恭司(東海大)(以上委員)、戸塚洋二(ICRR 所長)、井上直也(埼玉大事務局)、林田直明(ICRR 事務局)

議 事

(1) 平成12年度CRC選挙開票結果

事務局(林田)より下記の選出投票経緯の報告があり新委員の確認を行った。

2000年5月1日、綾部俊二氏(埼玉大)の立会人の下に開票した結果、全ての票が有効であり、定足数104(有権者数310)に対して、有効投票数121(郵便49, Email 72)であった。

メール投票では、全てプログラムによる自動的な解読・選別・集計の作業ができた。

(a) CRC 実行委員会委員長

順位	氏名	得票	所属機関
1.	坂田 通徳	45	甲南大
次点	村木 綏	17	名古屋大
	その他	46	
	白 票	13	

以上の結果、坂田 通徳 氏 が委員長に選ばれた(2期目)。

(b) CRC 実行委員会委員 (定員 12 名)

当選順位	氏名	得票	所属機関	備考
当選 1.	村木 綏	53	名古屋大	前委員
当選 2.	鳥居 祥二	41	神奈川大	前委員
当選 3.	谷森 達	37	京都大	
当選 4.	梶田 隆章	33	宇宙線研	前委員
当選 5.	神田 展行	30	宮城教育大	前委員
当選 6.	手嶋 政廣	29	宇宙線研	
当選 7.	長谷 部信行	27	早稲田大	
当選 8.	太田 周	24	宇都宮大	前委員
当選 9.	松岡 勝	23	宇宙開発事業団	前委員
当選 10.	宗像 一起	22	信州大	
当選 11.	水谷 興平	21	埼玉大	
補欠候補	柴田 徹	21	青山学院大	前委員 7 位
当選 12.	西嶋 恭司	17	東海大	
補欠候補	佐々木真人	17	宇宙線研	前委員 8 位、同一機関 3 位
補欠候補	柳田 昭平	16	茨城大	前委員 9 位
補欠候補	榎本 良治	15	宇宙線研	同一機関 4 位
補欠候補	南條 宏肇	14	弘前大	
	その他	241		
	白 票	108		

以上の結果、上記の当選 12 位までの、12 名の方が委員に選ばれた。

(注 1) 委員長に投票された次点以下の方の票は、委員の票に加算される。

(注 2) 「委員 12 名中、前年度委員が 6 名を越えることはできない」規定により、前委員 7 位の柴田徹氏と、前委員 8 位の佐々木真人氏は委員とならない。

(注 3) 「同一機関から選ばれる委員の数は、2 名を越えることはできない」規定により、宇宙線研の佐々木真人氏は同一機関 3 位であり、委員とならない。

(注 4) もし欠員等が生じた場合、上記の補欠候補の中から、上記(注 2)、(注 3)の規定を考慮した上で、繰り上げ選出される。

(c) 第 18 期物研連・原子核専門委員会委員推薦候補者 (定員 7 名)

推薦順位	氏名	得票	所属機関	備考
推薦 1.	村木 綏	56	名古屋大	
推薦 2.	坂田 通徳	25	甲南大	
推薦 3.	木舟 正	19	宇宙線研	
推薦 4.	松岡 勝	19	宇宙開発事業団	
推薦 5.	谷森 達	17	京都大	
補欠候補	福島 正己	16	宇宙線研	同一機関
	黒田 和明	15	宇宙線研	同一機関
	荒船 次郎	9	宇宙線研	3 期委員
補欠候補	山本 嘉昭	8	甲南大	同一機関
	太田 周	7	宇都宮大	3 期委員
推薦 6.	柳田 昭平	6	茨城大	
推薦 7.	鳥居 祥二	5	神奈川大	ジャンケン勝
補欠候補	長谷部信行	5	早稲田大	ジャンケン敗

以上の結果、上記の推薦 7 位までの、7 名の方が候補者として推薦された。

- (注1) 学術会議の規則により、物研連委員を4期以上務めることはできない。これにより、荒船次郎氏と太田周氏は被選挙権を有しない。
- (注2) 「委員候補者の選出は、原則として同一機関から1名とする」規定により、福島正己氏、黒田和明氏、山本嘉昭氏は推薦されない。
- (注3) 「同票の場合は、本人に連絡のうえ、くじ引きにより決定する」規定により、メールジャンケンを実施して勝者を推薦候補者とした。

(2) 新入会員

以下の2名の希望者についての紹介があり、両名とも入会が承認された。

- 竹田 成宏 (宇宙線研 学振研究員) (推薦者): 福島正己、手嶋政宏
(研究歴): AGASA データ収集システム開発。 GZK cutoff 以上のエネルギーを持つ宇宙線の検出。 TA オンライン収集ソフト開発。
- 寺田 聡一 (計量研 技官) (推薦者): 黒田和明、大橋正健
(研究歴): レーザー干渉計型重力波検出器の開発。
干渉計を用いた距離計の校正。

(3) 退会者

菅野 常吉氏 (無所属) の退会を承認した。

(4) CRC 事務局の新体制の件

(CRC Homepage 速報-89; 平成11年度第3回 CRC 実行委員議事要録 参照)

事務局林田氏より宇宙線研究所で引き受けている「CRCPOST」の呼び名を

「CRC 事務局 宇宙線研支部」へ変える提案があり、それを了承した。

- (説明); 昨年度までは、CRC の関連機関、近隣分野の団体等から種々の依頼、ニュースが宇宙線研の CRC 事務局へ「CRC 事務局宛」で送られて来た。 この様な依頼・ニュース等の宛先は外部に対してあまり変わらない方がよい。 宇宙線研の「CRCPOST」は CRC 会員向けのみを想定してつけた名称である。 外部から見ても CRC 内部から見ても適当な呼び名を付けた方がよい。

この様な事から。

(a) 「CRCPOST」の呼び名を「CRC 事務局 宇宙線研支部」に変更する。

(b) 「CRC 事務局」は従来通り担当大学 (現在埼玉大学) の名称とする。

参考までに具体的に列挙すると、以下の様な業務分担になる。

「CRC 事務局」の業務。

- ・実行委員会 (年4回)、総会 (年2回) の準備から議事要録作りまで。
- ・実行委員長、実行委員との連絡 (特に実行委員会の前など)。
- ・「CRC 事務局宇宙線研支部」との連絡 (実行委員会用の資料取り寄せ等)。

「CRC 事務局 宇宙線研支部」の業務。

- ・関連機関、近隣分野の団体等から種々の依頼等の受け付け窓口。
- ・CRC News ; 配信依頼メールの受付と会員への配信 (委員会報告、研究会公募案内等)
- ・名簿; 会員の移動、入退会の連絡受付。 ・会費; 会費の受付と会計処理。
- ・連絡誌; 発行と郵送。 ・「CRC 事務局」との連絡。 ・ホームページの管理。
- ・CRC 選挙事務。

(5) 各種委員会報告 (村木)

(a) 高工ネ研運営協議会: 助手に関して任期3年制 (厳守) の導入を検討中。

(CRC Homepage 速報-111; KEK 運協報告 参照)

(b) 核物理センター: 助教授、助手を公募中 (CRC Homepage 速報-93; RCNP 運協報告 参照)

(c) STE 研: 新任助手 (さこ隆志氏) 教授 (湯田利典氏) の採用を決定。

(d) 物研連: ・現在、次期委員会委員の選出が行なわれている。推薦候補選出に関する方式を

充分理解していなかったため、物理学会からの推薦委員候補の名簿に CRC から出さなかった。今後十分に注意したい。

- ・核融合試験炉 計画 (5000 億) の位置づけについて議論した。
- ・物理教育の改善について答申した。

(6) CRC 事務局活動報告 (林田)

(a) CRC 活動

- (1) 4 月 12 ~ 26 日; CRC 選挙
- (2) 4 月 13 日; CRC 連絡誌 No.280 発行郵送
- (3) 5 月 1 日; CRC 選挙開票
- (4) 5 月 8 日; 会員名簿調査
- (5) 6 月 26 日; CRC 連絡誌 速報-1 号 発行郵送
- (6) 随 時 ; CRC News 配信

(b) CRC 連絡誌 速報版

「CRC News」を簡素な冊子に編集し、「CRC 連絡誌-速報-1 号」として「非メール会員」(71 名)に郵送した。年に 3~4 回発行する予定。

(c) CRC News メール配信

委員会報告; 5 件

- 4/6; 平成 11 年度第 3 回 CRC 実行委、4/25; RCNP 運協、
- 5/23; 平成 11 年度第 4 回 CRC 実行委、6/23; 平成 11 年度第 2 回 CRC 総会、
- 6/23; KEK 運協

公募案内; 6 件

- 4/5; 名大 STE 研教官、5/1; 山形大理助手、5/16; 都立大理助教授、
- 5/30; ICRR 教官 3 件、6/21; 東工大理工教授、7/7; 大阪市立大理教授

研究会案内; 10 件

- 4/6; 学会シンポジウム企画、4/13; ニュートリノ研究会、
- 4/25; IEEE Nuclear Science Sympo、4/25; Geant4 講習会、
- 5/9; ニュートリノ研究会、5/16; 学会合同セッション、
- 5/29; 学会・合同シンポジウム、6/12; ニュートリノ第 2 回研究会、
- 6/14; 学会シンポジウムと特別講演、6/21; EUSO ワークショップ

その他のお知らせ; 9 件

- 4/13; 柏 ICRR 会員連絡先、4/18; 連絡誌、選挙、会費、4/19; メール選挙用紙配信、
- 4/19; メール選挙用紙配信、4/25; 選挙投票呼びかけ、5/8; 会員名簿確認、
- 5/10; 選挙開票結果、5/12; 名簿の更新、5/19; 名簿の更新、5/26; ICRR ニュース 40 号

(詳細は、CRC Homepage の「速報」に掲載しています。)

(7) 宇宙線関係各プロジェクト報告

(a) T A (手嶋)

宣伝活動の強化、それに関して新既パンフレットの配布があった。
超高エネルギーニュートリノ、ガンマの検出が宇宙線起源解明に果たす役割が大きい。EUSO 計画とは競合しないだろう。

(b) カンガルー (谷森)

10m 鏡が稼働。

(c) 重力波 (神田)

柏で干渉系の実験予定。低温実験についての R & D を予定中。TAMA はこの夏、10 日ほどデータ収集予定。2000 ~ 2002 年にかけて、2 ヶ月の観測を予定。

(d) DUST 加速器 (長谷部)

東大にて 100kV、DUST 加速器が 9 月より稼働予定。
東海村に新加速器が稼働中。

(8) 宇宙線物理学賞、宇宙線物理学奨励賞

H12年3月31日のCRC総会で紹介した案について議論した。

(宇宙線物理学賞)

「当初は良いとしても、300人程度のCRCで毎年賞にふさわしい人が出せるか？」

「特別賞の様な形式で不定期にするという方法をとったらどうか？」

「その賞の重みはどの様なレベルと認識するか。慎重に詰めるべきである」

「特別賞の様な形式で不定期にする」「その賞の重みはどう認識するか」

などの意見が出て、今回は賞の制定を見送ることにした。

(宇宙線物理学奨励賞)

「賞を開始した当初は候補者が多く出るだろうが、数年もすると候補者の数が少なくなってしまう様な事は無いのか？候補者数が毎回5人以上ある事が望まれるが、長期的に人数を維持できるか？」

「応募者数の見込みを考えると、将来は領域の枠を素核宇の分科会程度にまで広げ、他分野と協調して運営したらどうか」などの意見が出た。

結論として、他分野が既に実施していることを考え、将来は周辺の他分野と協調して運営することも視野にいれて、下記要綱により今年度より発足させることにした。

賞の選考委員会委員を、宇宙線関係者として委員長の水谷興平氏のほかに手嶋政宏氏と長谷部信行氏、理論関係委員として荒船次郎氏、高エネルギー実験関係委員として渡辺靖志氏(東工大)、天文学関係委員として榎野文命氏(宇宙開発事業団)に依頼することにした。

尚、この委員の任期は2年程度とすることにした。

宇宙線物理学奨励賞要綱(案)(2000.07.15 実行委員会制定)

1. 賞の趣旨

広い意味の宇宙線物理学の優れた若い研究者を褒賞し、宇宙線物理学の将来の発展に資するため、宇宙線物理学奨励賞を設ける。

2. 賞の対象分野

対象分野は広い意味での宇宙線物理学とする。

3. 賞の選考委員会

選考委員と同委員長は宇宙線研究者会議(CRC)実行委員会を選出し、構成は、

宇宙線関係者(選考委員長を含む): 3名、

理論関係者: 1名、

高エネルギー実験関係者: 1名、

天文学関係者: 1名

とする。

4. 賞の候補者の募集

賞の候補者はCRC会員による推薦、または本人の自薦により募る。

5. 対象者は、過去5年間に奨励に値する論文を発表した者のうち、将来重要な貢献が期待できる研究者とする。

6. 1年に1回の選考とし、賞の授与は各回原則として1名までとする。

該当者がいない場合もある。

7. 公表時(脚注)35才以下の若手による論文を対象とする。但し、学位論文を重視する。

共同研究に基づく論文では、対象者の寄与が本質的であることとする。

8. 賞状と賞金をCRCより贈呈する。賞金の額はCRC実行委員会が別に定める。

9. 講演

受賞者は原則として受賞後の物理学会で特別講演を行なうこととする。

10. 選考日程

締め切りは原則として9月末日、選考は10月~11月の間に行ない、

11月末に結果を発表する。春のCRC総会で授与式を行なう。

(脚注) 博士論文は審査を通過した時点、ほかの論文は雑誌に掲載もしくはプレプリントが発行された時点とする。

(9) 名誉会員の制度的な新設

前年度の実行委員会の審議を引き継いで議論した。

「連絡誌郵送など CRC 関連情報を提供するが会費は頂かない」

「65 才以上で、退会の申し出をされたとき、移行をお願いする」

「選挙権はなしとする」

「それまでの会員年数は 15 年以上とする」

「名称は「OB・OG 会員」とする」

など、ほぼ合意を得たので、これらを委員長がまとめ、次回の実行委員会ぐらいに決定することにした。

(10) 2003 年 第 28 回国際宇宙線会議 (28th ICRC)

組織委員会の梶田氏より、4 月末に日本学術会議に日本での開催の連絡書を提出したこと、5 月半ばに IUPAP ヘサポートの申請をしたこと、12 月末までに日本学術会議に物理学会から共同主催申請書を提出しなければならないこと、このために近々、暫定組織委員会、暫定プログラム委員会のメンバー等を決めなければならないこと、などの準備状況について報告があった。会議の構成としては、従来通りの OG、SH、HE のほかにプレナリーを主とした重力のセッションを加えることにしているとの報告である。

尚、会場は「つくば国際会議場エポカル」である。周辺にコンビニエンスストアやレストランも増えており、また徒歩 10 分ほどのつくばセンターにはレストランも多く昼食にも問題はないとのことであった。

(11) 宇宙線研究所関係の諸報告 (戸塚所長)

宇宙線研究所の外部評価が終り、近々その内容がオープンになる。

国立天文台の海部台長と LMSA および TA・重力波の計画推進について相互に支援し合って行くことを確認しあった。これらの計画について近々学術振興会に提出する資料を作成する必要がある。

全国研究所長会議で独立法人化に対応する議論を進めている。研究所の連携や統合の議論がなされている。

(12) CRC 関連諸大学の活性化の方針

前年度の議論を引き継いでフリートーキングした。

活性化を具体化するためには、現在の研究費等の運用、システムの改善が多く点で望まれる。CRC としては、具体的に改善してほしい事項を検討して、研究団体として格調高いアピールにまとめて関係する諸機関に提出していく出していくのが望ましい。これはそれなりに意味のあることである。この視点立って次の様な事項が議論された。

各大学のスタッフの数は 2 名までという現状が問題である。それを補う意味で、各大学の研究費等でポストクが自由に取れる様になるとよい。科研費でもこれがきちんと出来る様になるとよい。

特定領域研究の研究費の用途の枠を広げるよう要求していくとよい。

宇宙線では伝統的に海外でのプロジェクトが多いが、この様な研究がやり易い様な環境をつくるにはどの様な事柄があるかを研究し、具体的に要求していくとよい。

各大学では、スタッフが少ない環境の中で、学生教育と大学運営のためのあらゆる業務・会議に時間を取られている。個別研究や特定領域研究等の分担研究において十分な成果を出すために、たとえば半年自由な時間が取れる様に制度的に保証されるとよい。

著者数が多いことなどで他分野に認められ難いことがあるが、これ等については、宇宙線分野

としての研究形態等の特徴を研究し、整理したものをまとめて、アピールしていくとよい。アピールの形にまとめることについては次回の実行委員会で議論することにした。

更に、次の様な討論が行なわれた。

発展する分野は必然的に活性化する。多様な研究が存在する分野は発展する。一極集中させてしまうと各大学の発展が阻害される。最近の大型研究は研究の成果目標が単一化し、各大学は研究成果で独自性が出せなくなっている。一方、X線宇宙物理の分野ではSNR、SN、銀河等各大学が特徴をもって貢献している。Telescope-ArrayもCANGAROOもこの点から見ると考えられる研究課題がきわめて少ない。この様な問題を解決する試みとして、各大学で研究のR&Dを行ない、新しい芽を出させ、またCOEの形成の可能性のあるところではその方向で取り組む事が考えられる。

KEKは大学院生にとっては、別の大学から来ている若手と交流し、勉強し研究者として育つ上で良いところであったと思う。

TAは今開発段階であり、参加大学ではsimulationなど重要な貢献をしている。

以前のCRCでは、理研、立教、名古屋、大阪市大、神戸が大きなグループだった。これらの大学には数人のスタッフがいて、チームワークが良ければ良い研究成果を出していた。現在は講座費は減り、科研費がどんどん増えて1,400億円台に到達した。今後もこの傾向は変わらないだろう。従って元気のあるところへ研究費が集まるだろう。例えば宇宙線研究所以外に、京大を極としたり、大阪市大を中心としたりして計画を立てていく様な形も作っていかねばならない。そうしなければ学問が窒息する。

宇宙線研究所では大プロジェクトを立て、一方では地方大学もCOEなど極になる様な研究を行なっていく。

各大学独自の開発研究(例えば粒子線、SH系、ダスト、年代測定など)を行なっているが、研究が進展して中規模の計画となってくるとICRRからのサポート、宇宙線分野としてサポートをして頂かないと、一定以上伸びることが出来ない。

研究は旧帝大だけでやれるのか？少人数のスタッフしか持たない大学はどうするのか？我々の大学にCOEのポストが取れば良いが、それは出来ない。今後「COEの分室制」などを作り、小さな大学でもCOE研究員が取れる様になるとよい。

今のシステムでは光熱費は出せず、人も雇えない。1人のPost Doc.で500万円/年要る。

科研費で人が雇えないのは絶対的なものではない。科学技術庁関係では弾力化が進んでいる。

学術振興会から人が派遣されて来る形をとっている。井上財団でも可能にしてくれている。

(13) 次の時代の宇宙線関連分野の将来計画の策定

松岡委員より、飛翔体(ここでは宇宙ステーションに限る)を用いた宇宙物理学研究の今後について紹介があった。

NASAでは宇宙線観測と全天X線モニタリングに今後重点をおくことになっている。

NASDAでは既に決まっている第1期の3ミッションに続く2007年頃以降の打ち上げとなる第2期の計画のAOを2001年3月以降にまとめる計画が進んでいる。イタリアではEUSOのR&Dから搭載への採択の可否が今年度後期に決まる。NASAは第一期のAMSは決まっていがる、それ以降は宇宙線観測ではACCESやECCO等R&Dが進んでいるが決定はまだなされていない。ESAでも第一期のペイロードは宇宙線以外で太陽観測や基礎物理の小型装置が決まっているが、第二期以降はまだ決まっていない。

第二期以降の装置については、NASDA, NASA, ESAで研究提案者の意向を尊重して事務的な調整をやることになっている。NASAではOWLを宇宙ステーションでやる計画は当面なさそうであるが、米国の研究者はOWLを単独衛星でやる提案もある。

将来計画の策定のために特定領域研究のグルーピングを宇宙線研究所にやってもらうとよいとの意見が出て、これについて次回の実行委員会で議論することにした。

これに続いて以下の意見が出された。

宇宙ステーションの利用は当面、検出器の開発をするには役に立つだろう。R&Dをやって10年のタイムスケールで結果をだすことを期待することになる。しかし日本としても、長期的なdiscussionをしていくことは重要だと思う。

飛翔体による研究の過去を振り返ってみると、研究成果が出始めるまでに X 線でも太陽でも赤外線でも約 15 年はかかった。飛翔体の打ち上げにはリスクが常にある。地上で出来るものがあればそれをやって、一定の成果を出しつつ、実力と研究者の community を形成する。そうすればチャンスが来て飛翔体へ乗せるには 2~3 年で対応出来るような実力をつけることも出来るだろう。

CRC は特定領域や COE の研究計画をグルーピングして、CRC がサポートの文章を書くというかたちは有効であると思われる。

(14) その他

物理学会でのシンポジウム・特別講演として、春の年会では、
宇宙塵関係
年代測定関係
のシンポジウムを企画してもらうことにした。また、特別講演として、
Axford 氏の「粒子加速」
の推薦があった。

CRC Homepage 速報-116 , CRC News No.170 ; 2000 年 8 月 9 日配信

***** < 第 17 回 素核研 (KEK-IPNS) 運協報告 > *****
(文責 村木 綏)

日時 : 7 月 24 日 10:30 ~ 12:50

報告事項

山田所長 : 6 月 22 日評議会があり、H13 年度概算要求大綱が承認された。共同利用機関も独立行政法人になることに関して、共同利用の形態が変わる可能性がある等の議論もあった。

B-ファクトリーは 7fb(-1) の目標にほぼ達したので、秋からのランに向け加速器の性能向上の基礎となる study を始めた。

CERN SPC の報告。LHC 計画に全力を上げること、人員削減計画等。

菅原機構長 :

独立化の状況について報告があった。

文部省に以下の 4 つの委員会ができた。各委員会は約 15 名で構成されている。

国立大学、公私立大学、経済界の代表からなる。大学共同利用機関からも 1 名入る。

1) 組織業務委員会、2) 目標・評価委員会、3) 人事制度委員会、4) 財務会計制度委員会。7 月 31 日第 1 回目は組織業務委員会を開催し、順次 1ヶ月毎に各委員会を開催していく。

国大協でも同じテーマに対応する委員会を設ける。共同利用機関も、4 つの委員会に対応する委員会を設けることにした。

文部省に評価機構ができた。理学では 小林誠 (KEK), 外村 (日立), 川口 (東大駒場, 化学) の 3 氏が評価委員に入っている。今後専門委員、評価員が順次決められる。新プロ・COE 委員会は 5 件を選出した。最終的にはこの中から 2~3 件にしぼる。

各部報告

加速器関係 (木原):

PS は 6 月 22 日から遅い取り出しへ切換えを行った。

8 月~9 月は PS シャットダウン。

e+e- 関係では、入射機の 2 バンチ加速のテストをしている。電子バンチの幅は 10ps、両バンチは 96.25ns 離れており 20ms 毎に加速する。

共通部 (近藤):

田無の加速器建物の放射化物撤去作業は順調に進み、8 月末に終了する見込み。

EGS-4 の講習会は申込者が多く、秋に別途実施する。

大型ハドロン (山田):

第3者レビューは、7月25日の原子力委員会で報告された。文部省学術審議会関係にも報告される。今後1ヶ月公開して市民の声を聞いて、評価終了。

概算要求は総額1890億円となったが、当初は約3分の2くらいに絞られるのではないかとの見通。

保安林伐採について、公益上の理由により地元の了解を得る方向で調整中。

B-ファクトリー (黒川):

ルミノシティが 2×10^{33} にいった。放射光が作り出した光電子がビームを肥大させるので、これに対する対策を夏休み中に増強したい。また放電や発熱で電流が上げられないビームパイプの構造を改造して更にルミノシティを2倍に上げたい。

PS(中村): ニュートリノホーンのテスト運転を夏に継続する。

ニュートリノ実験は来年1月に再開する。

6月までのK2Kの結果は、大阪での国際会議で発表する。

2重ストレンジハイパー核の研究(E373)が終了した。

その他(山田): FNALのタウニュートリノの発表があったが、これは日米でやった仕事なのだから、きちんと日米プロジェクトを言及してもらうよう要望した。このことは次回の日米の委員会でも正式に申し入れる。

その他(小林): 大学評価機構については、文部省のホームページに載っているので見て欲しい。

H12年度は専門委員会を12月までに開催し、2月に書類を作成、7~8月に評価し、H13年度12月に報告書を出す。まず始めに理学系、医学系のそれぞれ6機関を評価の対象として、研究のみを実施、やがて教育サービスにおける社会貢献等にも向かう。

審議事項

1. ソウル大学、延世大学との協定案を承認した。

2. 物理第3研究系の助教授案を承認した。

1名はPS実験で、当面は実験企画調整担当。

1名はPSを用いたレプトン物理をねらう人。

3. 研究計画委員会を立ち上げて、若い人を中心に将来計画や、現在の計画について検討してもらう様にしてはどうかとの提案が山田所長よりあり、前回に続いて具体的な目的、構成等について議論した。積極的に進めてもらいたいということになった。

*** < 第 1 回 (2000 年度) 宇宙線物理学奨励賞 受賞候補者の募集 > ***
***** < 会 報 > *****
CRC 会員 各位

2000 年 9 月 5 日
CRC 実行委員長 坂田通徳
CRC 事務局 埼玉大学 水谷興平、井上直也

第 1 回 (2000 年度) 宇宙線物理学奨励賞 受賞候補者の募集について

1999 年秋の CRC 総会で提示、2000 年春の CRC 総会での討論を経て、本年度より宇宙線物理学
関連分野の研究者の貢献を賞賛し、若手の活動を促進・評価することを主眼として CRC 主催で下記
の要綱に基づく「宇宙線物理学奨励賞」を発足させることになりました。

つきましては、下記の要領で「第 1 回 宇宙線物理学奨励賞」の対象候補者と論文の募集を行います。
この募集記事は CRC Homepage <http://www.icrr.u-tokyo.ac.jp/CRC/> にも掲載しています。

宇宙線物理学奨励賞要綱 (2000.7.15 実行委員会制定)

1. 賞の趣旨

広い意味の宇宙線物理学の優れた若い研究者を褒賞し、宇宙線物理学将来の発展に
資するため、宇宙線物理学奨励賞を設ける。

2. 賞の対象分野

対象分野は広い意味での宇宙線物理学とする。

3. 賞の選考委員会

選考委員と同委員長は宇宙線研究者会議 (CRC) 実行委員会を選出し、構成は、
宇宙線関係者：選考委員長を含む 3 名、
理論関係者： 1 名、
高エネルギー実験関係者： 1 名、
天文学関係者： 1 名

とする。

4. 賞の候補者の募集

賞の候補者は CRC 会員による推薦、または本人の自薦により募る。

5. 対象者は、過去 5 年間に奨励に値する論文を発表したものうち、将来重要な貢献が期待 できる研究者とする。

6. 1 年に 1 回の選考とし、賞の授与は各回 原則として 1 名までとする。該当者がいない場合 もある。

7. 公表時 (脚注) 35 才以下の若手による論文を対象とする。ただし、学位論文を重視する。 共同研究に基づく論文では、対象者の寄与が本質的であることとする。

8. 賞状と賞金を CRC より贈呈する。賞金の額は CRC 実行委員会が別に定める。

9. 講演

受賞者は原則として受賞後の物理学会で特別講演を行なうこととする。

10. 選考日程

締め切りは原則として 9 月末日、選考は 10 月 ~ 11 月の間に行ない、
11 月末に結果を発表する。春の宇宙線研究者会議総会で授与式を行なう。

(脚注) 博士論文は審査を通過した時点、ほかの論文は雑誌に掲載もしくはプレプリントが
発行された時点とする。

第 1 回 (2000 年度) 宇宙線物理学奨励賞受賞候補者 募集要領

記

1. 推薦締切 2000 年 10 月 31 日
2. 対象者及び論文
1995 年 4 月 1 日より 2000 年 10 月 31 日の間に公表された論文 (要綱参照のこと) で
公表時の対象者の年齢が 35 才以下であること。
3. 推薦・応募手続き
添付の推薦・応募用紙に必要事項を記入し、対象論文の別刷りまたはコピー 1 部と
ともに下記に送付・提出のこと。
4. 提出先 CRC 事務局
宛て先氏名 : 水谷 興平
宛先住所 : 〒 338-8570 浦和市下大久保 255 埼玉大学 理学部
電話 : 048-858-3376
(問い合わせは CRC 事務局 埼玉大学 水谷 興平
E-mail : mizutani@cr.phy.saitama-u.ac.jp
電話 : 048-858-3376)
5. 発表 2000 年 12 月中旬、CRC ニュースにて発表

宇宙線物理学奨励賞 推薦用紙

対象者 氏名 _____
所属 _____
生年月日 _____

対象論文 題名 _____

種類 博士論文・プレプリント・雑誌 _____

公表日 _____
(博士論文の場合は正式審査を通過した時点)

推薦または自薦の理由、対象者の寄与 (連名の論文の場合のみ)

発行：宇宙線研究者会議

〒277-8582 千葉県柏市柏の葉 5-1-5

東京大学宇宙線研究所 CRC 事務局 宇宙線研支部 林田 直明

Tel. 0471-36-5117, Fax. 0471-36-3131

E-mail : crejimu@icrr.u-tokyo.ac.jp

責任者：CRC 実行委員長 甲南大学理学部 坂田 通徳